

◆分散型TEKU-TEKUその1★王子・十条企画（活動記録）◆

企 画■軍都・東京の名残りを探して（王子・十条を歩く）

日 時■企画説明 2020年10月17日（土）20:00～22:00（オンライン）

歩く期間 2020年10月18日（日）～11月30日（月）

標準コース■王子駅～音無川親水緑地公園～音無橋～東京ゲストハウス～醸造試験所跡地公園+赤煉瓦酒造工場（旧大蔵省醸造試験所）～音無さくら緑地（吊り橋）～中央公園文化センター（旧陸軍東京第一造兵廠本部、旧米軍王子野戦病院）～北区立中央図書館（旧陸軍東京第一造兵廠275号棟倉庫）～煉瓦造建物モニュメント（旧254号棟変圧所）～旧鎌倉街道+日光御成道～十条富士塚（再整備中）～東十条駅北口

評価提出■◎大竹 亮、磯 達雄、井手幸人、上野朋子、鎌原史英、栗原 徹、清水俊哉、田中 登、西田 敬、原 久子、藤井幹也、古里 実、横田宜明（以上13名、◎コーディネーター）

企画主旨■明治大正から昭和戦前の東京は、帝都であるとともに「軍都」でもありました。特に北郊の王子・十条付近には、多数の軍事施設や軍需工場が集中していました。戦後その面影は失われていますが、一部は米軍施設に転用されており、ベトナム戦争当時の米軍王子野戦病院（キャンプ王子）が反戦市民運動の標的だったことは強く記憶に残っています。今回は、返還後に保存改修して利用されている建物の代表格である中央公園文化センターと北区中央図書館を中心に、軍都・東京の名残りを訪ね歩きましょう。

1◆醸造試験所跡地公園+赤煉瓦酒造工場（旧大蔵省醸造試験所） 評価:3.00 内訳:AAABBBBBBCCC

評価A●家族で遊んでいた、学生がたむろしていた、アットホームな公園。緑の広場と赤茶のレンガ蔵の建物との色合いもいいし、スケール感も素晴らしい。

評価A●駅から近い場所にこのような形で存続していることを評価したい。他の用途にも転用できるのではないかな。

評価B●歴史的建物(妻木頼黄設計)と広々とした公園の組み合わせがいい。駅から住宅地への通り抜けにもなって賑わっている。青空の下、赤煉瓦建物を背景に緑の芝生広場で親子が遊ぶ風景は、生活の喜びを実感させる。

評価B●赤煉瓦酒造工場（重要文化財）に隣接した区立公園。密集した市街地の中にあり防災性が高く、赤煉瓦酒造工場の外観と一体となっている。地元の方の散歩ルートになっているようだが、初めて訪れる人に音無親水公園、石神井川音無さくら緑地と歩くルート図があるとよいと思う。

評価B●工場の中には入れなかったが、建物をうまく活かして公園にしていた。

評価B●きれいに保存されていたと思います。隣のマンションが煉瓦モチーフの外観でした。

評価B●建物はかなり良い状態で維持されている。現時点では一般公開されておらず、内部を見られなくて残念。残っている施設自体はかなり大きく、一般公開されるなら訪れたい。公園自体は建物との一体感がない。

評価B●化粧レンガ小口積と外観上部のロンバルト帯風の意匠が、明治建築界の巨頭の一人、官庁営繕の長、妻木頼黄の設計によるものとは知らなかった。隣接の公園から外観を眺めるだけとなったが、今も醸造試験所と関連する日本酒造協会が事務所として管理しているので、一般公開の際には、是非内部も見学したい。

評価C●妻木頼黄が設計したビール工場が東京にも残っていることそれ自体が素晴らしいが、公園との一体性がもう少し出るとさらによいだろう。夏にはビアガーデンにしたい。

評価C●赤煉瓦酒造工場は、道路からの入口に入ってよい施設かどうかの案内がなく、偶然通りかかった人は入らないだろうと思いました。更に、敷地内に入っても施設案内がなく、建物内にも入れないのでがっかりしました。建物そのものは誰が見てもなかなか価値あるものだろうなとわかるので、非常にもったいない。

評価C●赤煉瓦の酒造工場が保存・活用されていることは評価できるが、街の視点からはその建物が十分には活かされておらず、特に道路側の変電設備を何とかしてほしい。

評価ー：車で前を通っただけですが……レンガの建物は目に飛び込んできてとても印象に残り、街の居住まいを正してくれるような存在感を感じました。



醸造試験所跡地公園の芝生広場



現在も使われている赤煉瓦酒造工場

2◆中央公園文化センター

評価:3.67 内訳:AAAAABBBBBBC

(旧陸軍東京第一造兵廠本部、旧米軍極東地図局+王子野戦病院=キャンプ王子)

- 評価A●旧陸軍1930年の建物で築90年。文化財でもなくよく残して、区民の文化施設としてリノベーションし活用している。一階廊下に、地域の歴史とともに建物の紹介が掲示されている。
- 評価A●前庭も一体として残されていることと、後ろの公園とのつながりがあるのが良い。案内などの写真は建物だけではなく前庭もセットで移った写真などエリアとして紹介することによって、一般の方に面としての魅力をより意識してもらえるのではないかと思います。
- 評価A●建物のオリジナルな部分を上手に残せているのが評価できる。広い前庭や自衛隊駐屯地に続く公園内に立地し緑豊かな景観を作っている。訪れた時は内部がガランとして、活用度は余り高くなさそうに思えた。
- 評価A●(当時の外壁色は分かりませんが)白亜の城郭を思い起させるファサードとシンプルなデザインの車寄せに好感を持ちました。祝日に行ったので閉館日で、中を見学できなかったことが残念です。すぐ脇に「皇后陛下行啓記念」碑がありましたが、昭和天皇の時代でしょうか(石碑裏の文字が良く読めませんでした)。
- 評価A●往時は背後の公園や自衛隊駐屯地一帯に広がる日本陸軍造兵廠の本部として、通りに面して一段高く権威的な建物だったのだろう。戦後、駐留米軍に利用され、ベトナム戦争の野戦病院になるなど数奇な運命をたどりつつ、現在は地域の市民団体の活動の場(生涯学習センター)として利用され、平和を実感した。
- 評価B●歴史的建築物だがエレベーターをつけるなど時代に合わせて改修され、今でも市民が利用する公共的施設として十分に活用されている。
- 評価B●何かの発表会があったようで、ちょっとおめかしした子どもたちがいました。外は樹が茂りすぎていて少し肌寒い感じでした。(夏は気持ちよさそうです)
- 評価B●訪れた日は防災関連の催し物が開催され、中には入れませんでしたが、シンボリックな白い建物は地域のランドマークでした。
- 評価B●建物前のオープンスペースがいいですね。背面から見ると、モダニズムの香りがただよっていて、こちら側も見どころです。
- 評価B●外観は、ロンバルド帯やアーチ、縦長の窓など、歴史様式がちりばめられ、きれいに維持管理されていると感じた。祝日に行ってしまう、休館のため中へ入れず残念。
- 評価B●歴史的な建築物を再利用していることは評価します。ただ、あまり積極的に使ってもらおうという工夫が見られなかったため、早々に退館しました。また、元々の建物がどういう建物で、それをどのように有効利用したかの解説が(あったのに見つけれ)なかったのも残念です。
- 評価C●建物を生かして地域団体の活動に利用していたが、にぎわいのある仕掛けになっていなかったのが残念。



中央公園文化センターのファサード



中央公園文化センター階段室の縦長の窓

3◆北区立中央図書館

評価:5.00 内訳:AAAAAAAAAAAAA

(旧陸軍造兵廠十条兵器製造所275号棟、旧米軍東京兵器補給廠第4地区)

- 評価A●赤レンガの倉庫を残しつつ新しい建物を増築しているが、新旧の対照的なデザインがうまく調和している。かつての兵器製造所が図書館という文化の拠点になっている点も面白い。
- 評価A●煉瓦倉庫を部分的に使い、地形の高低差を利用してバリアフリーとしている。利用者も多く、区の図書館としては有数の広くて使いやすい図書館である。
- 評価A●図書館と自衛隊敷地との間に整備された歩道は、新設されたモダンな図書館と陸上自衛隊の白いモダンな建物がチラチラ見え、その間を埋める通り沿いの煉瓦造の建物がいいアクセントになって気持ちのいい歩道空間であった。また、図書館内部の煉瓦部分の新設された建物との切り替え部分はとてもいい感じだった。
- 評価A●本物のレンガの良さを感じられる建物が、日常的な公共施設として使われている様子を見て、うらやましく感じました。古い建物と新しい建物の混ぜ方、分け方がうまいです。
- 評価A●光の取り入れ方を含め良い雰囲気、かつ建築的に新旧の融合を意識させる今日的な設計をされている。

評価A●赤煉瓦倉庫とコンクリートの新館が、敷地の高低差を活かして上手に組み合わせられている。新館の光庭を囲む読書スペースもいいが、赤煉瓦倉庫の大空間を活かした開架書庫兼学習室はまさに圧巻。渡り廊下の先の北区の部屋や螺旋階段を上った児童書コーナーなどを含め、建物全体に空間的変化を伴った回遊性があり、まるで本の森の中を探索するかのような充実感がある。

評価A●「赤レンガ図書館」と呼ばれるように、増築 RC 部分を敷地の高低差を使って大きく見せないようにし、旧煉瓦工場部分と上手に繋ぎ、デザインされていると感じた。赤レンガカフェや2階児童図書室へ上る階段からトラス構造がきれいに見えた。新館回遊路の動線処理も上手い。北区の部屋も地域の資料が見やすく親しみやすい雰囲気、地域図書館のお手本になると感じた。

評価A●現代的な機能を持った図書館に旧軍事施設の一部を活用した計画は見事。結果として図書館としての機能をスポイルすることなく、上手く旧施設の建物が組み込んでいる。図書館のエントランス前は公園になって多くの親子連れが憩う場所になっていて「図書館はこうあるべき」の見本。

評価A●旧陸軍のレンガ造を上手く使っており、優れた設計だと思います。また、何か所か当時の建材をそのまま展示しており、時代性を生かしている事例だと思います。

評価A●かつての建物をうまく生かして図書館になっていた。訪れた日は利用者で賑わっていた。

評価A●外も中も、多くの人が集っていました。皆に親しまれる場所となっていると感じました。

評価A●歴史的な建築物を可能な限り保存しつつ、新たな機能を付加してしっかり利用できていることを評価します。図書館としての落ち着き感も良かった。ただ、元々の建物がどういう建物で、それをどのように有効利用したかの解説がなかったのが残念です。

評価A●かつての姿を丁寧にまた効果的に再生して、構造や素材、細部の設え等の解説もあり、とても好感が持てました。図書館として空間も心地よく、わかりやすいなと感じました。また蔵書も個人的に興味をそそられるものが目について、途中から時間を忘れてしまい、あわててコピーして退館しました。レンガの図書館は街に良いオーラを発しているような、そんな印象でした。公園と一緒に一日のんびりできそうです。



新旧建物が一体となった北区立中央図書館



中世鎌倉街道(散策路)と赤煉瓦図書館

4◆上記以外で特に印象的だった場所や発見したことなど

<①標準コースに沿った場所>

王子駅北口の音無川沿い★駅前に飲食店が並び、王子神社の杜と音無川が流れる懐かしい風景。戦後の駅前整備が進められる前の渋谷、新宿などを彷彿とさせる。

音無川親水公園★王子駅直近とは思えない豊かな水と緑の空間。

音無川親水公園★駅のすぐ近くにこんな渓谷があることに驚かされる。

音無橋★1930年竣工の立派なコンクリート・アーチ橋は、自然渓谷の深さと軍事輸送の重要性を今に伝える。



音無橋の上から音無川渓谷をのぞき込む



旧河川蛇行跡を活用した音無さくら緑地

東京ゲストハウス★宿泊機能に加え、カフェやライブスペースも併設されて、街に賑わいをもたらしている。
赤煉瓦酒造工場隣のマンション★外観の上品な煉瓦モチーフは、歴史的建物の周辺への波及効果であろうか。
絶滅危惧酒(北区役所滝野川分庁舎向い)★何だかとても気になる店です。

音無さくら緑地★吊り橋があり、公園らしくできていた。

音無さくら緑地★旧河道の緑地、空地が開発されず良く残っていることに感心しました。

音無さくら緑地★かつての深山幽谷の面影が残り、とても住宅地の中の公園とは思えない。

音無さくら緑地★氾濫してきた川の履歴を伝えることに意義がある。

さくら緑地付近の音無川★子供の頃にエビガニを捕りに来た時は、まだコンクリート護岸がなく自然溪谷だった。

さくら緑地付近の道標★これは一体何と読むのでしょうか。自分の知識のなさで反省です。たにふどう？【写真①】

石神井川付近のバーバータナカ★これは渋い。築60年オーバーでしょうか。あと何年もちますかね。【写真②③】

都営住宅15号棟★昭和40年代でしょうか、EV棟を増築しているようです。あたりを見渡すと次々に建替えられているようで、15号棟も風前の灯でしょうか。【写真④⑤】



【写真①】 道標



【写真②】 バーバータナカ



【写真③】 同



【写真④】 増築E V



【写真⑤】 都営住宅15号棟

煉瓦造建物モニュメント★陸上自衛隊駐屯地の一角を開放し、旧254号棟変圧所のレンガ建物の一部を残している。

赤煉瓦図書館と合わせて一群の遺構に広がりが出てきた。前面の小広場も、空が広くてとても心地よい。

鎌倉街道と日光御成道★中世の街道はひっそりと残り、近世の街道は拡幅されてさらに発展するのだと感心した。

日光御成道★拡幅工事中であることを確認できた。

日光御成道★用地買収はされているがまだ道路整備がなされておらず、不思議な空間が広がっている。

補助83号線(十条)拡幅と地区計画★十条駅周辺は木造密集地で、補助83号線整備と併せて十条駅東地区(51.7ha、2006～20年度)で住宅市街地総合整備事業(密集事業)が進んでいる。2010年に「補助83号線周辺南地区」、2016年に「補助83号線周辺北地区」の各地区計画が都市計画決定され、不燃化を目指した安全安心な市街地の形成が進められている。世田谷区太子堂、豊島区雑司ヶ谷等の密集市街地整備をこれまで歩いてきたが、これからこの町がどのように変わっていくか見ていきたい。(→文末に参考図)

十条富士塚の工事現場★富士塚が跡形もない状態になっていることに驚きました。

十条富士塚★鬱蒼とした小山が全面的に撤去されて驚いたが、再整備を機に地元信仰が盛り上がるように願う。

十条富士塚★道路拡幅により再整備が必要になったが、歴史性を活かし次世代につなぐ史跡公園として整備されることを望む。

東十条駅北口★崖地にあるためか、駅へのアクセス空間が東西ともとても面白い。

東十条駅北口★路地のような商店街、狭くて急な階段など駅前とは思えない場所を抜けると突然、改札口に出る。時の忘れもののような場所。

<②コース以外の訪問場所……皆さんそれぞれご関心の場所へ足をのびたようです！>

名主の滝公園★地域の歴史と地形を感じた。

名主の滝公園★傾斜立地を利用した立体的な庭園。還流水を使った滝があり、線路脇とは思えない風情。

名主の滝公園★武蔵野台地の崖と湧水を活かした緑深い自然が多く残る。

石鍋久寿餅店★江戸下町の雰囲気醸し出し甘さ控えめの葛餅が美味しい。

さくら新道通り沿いの飲み屋街跡地(王子駅前飛鳥山下)★哀愁のある建物群がなくなった。

音無もみじ緑地★円形劇場としてイベントに使ったら面白いのではないかな。

北産業連合会館★モダンな感じのファサードが気に入った。

パノラマプール十条台★中央図書館から近かったので寄った(設計:アルコム)。

十条銀座★少しだけ立ち寄ったが、地元にある武蔵小山、戸越銀座に負けない賑わいがあった。

5 ■今回の施設群を見て、歴史的建物の活用について、どうしたらいいと考えましたか。

- 街の視点からは、歴史的建物を単に保存するだけでは不十分で、市民にとっての価値が重要であり、市民が利用でき市民に親しまれる建物として活用することが必要なのではないだろうか。
- 歴史的建物を活用する計画を進める場合に、効率や合理性だけでは説明出来ない部分がどうしても出てきてしまう。後になってブレないためには、対象となる施設の歴史的な価値をしっかりと掘み、周囲とコンセンサスを得ておく必要があると考える。
- 北区立中央図書館が一つの解決策だと思います。もともとの用途にこだわることなく、その場に必要とされる(あるいは成立する)用途を導入することも考えるべきかと思います。古い革袋に新しい酒を、ですね。
- 赤レンガ図書館の事例が示すように、今、これからの時代のニーズや機能に合うよう、再整備し活用することだと思う。地域の価値を高めることにもつながっている。
- 王子周辺に歴史的資産が多くあることをこれまで知らなかった。区民に活用されていて、よく残して活用していると感心した。歴史的資産活用の好事例である。
- 北区立中央図書館の煉瓦造の建物などは素晴らしい。(行事のある)休日に訪問した際、内部を見れたのは図書館のレンガ造の建物だけだったので、できれば休日、祭日などにも施設を開放してくれるといいですね。
- 今回の事例は公共の費用(税金)が投入されているので、図書館など公共の場となっているのは良い。歴史的建物活用のデザイン性は上がってきているが、まだまだ委託業者の文化度によるところが大きい。委託業者選定の際にソフトや活用のコンセプトなども考慮されているのだろうか。大田区の図書館は委託業者によってその違いを感じる。悪い例として、ある施設のカフェはセンスのない制服と食器で、内部展示物の貼り方など空間を壊してしまったり、、、役所の中にデザインチェック部門、デザイン担当の専門家がいるといい。歴史的建物ではないですが、小石川植物園の東大の博物館の展示や広報誌はセンスが良かった。
- どの建物も公園と一体になっていて、風景として市民に親しまれているようだ。赤煉瓦酒造工場の隣のマンションが煉瓦モチーフだったり、赤煉瓦図書館のカフェにテラス席があったりと、街へのしみ出しも大切だと思う。



妻木頼黄設計の赤煉瓦酒造工場(公園から見る)



赤煉瓦図書館の内部空間(開架書庫兼学習室)

6 ■音無川親水公園、音無さくら緑地、日光御成道拡幅、十条富士塚再整備などを見て、

自然地形や歴史文化と防災対策やまちづくりの関係について、どう考えましたか。

- 上野から赤羽に続く武蔵野台地の崖線の自然地形を活用して、人々が古くから生活していることがよくわかる。飛鳥山、音無川の谷、王子神社、王子稲荷、名主の滝公園に崖線の緑が残る。新幹線の車窓から見える緑がここなのかと分かった。
- 音無川親水公園は、石神井川の氾濫対策のため、本流を付け替え築造した後に整備したものと聞いた。そのような点から、治水対策、渓谷としての景観ともに大変優れたものだったと思った。特に、三連アーチの見事な音無橋を見上げる景色は感嘆もの。

- 音無川親水公園に私は初めて行ったが、これにはやられた。都心にこのような親しめる空間がまだ残っていたことに驚いた。次に行く機会があれば、飛鳥山公園も行きたい。
- 音無川親水公園とさくら緑地は共通して、導水路で役割の変わった跡地を再活用している。水害対策を考えると難しい親水空間の創出のあり方として、良い例になる。
- 文化的な資産を街の防災等のオープンスペースとして、うまく活用している。
- いかにも防災対策というのではなく、自然を残しつつ防災対策をされていることが暮らしに潤いを与えると思う（釣り堀になっていたのも、のどかな景色）。景観デザインも重要。富士塚はどのように地域のつながり、道路との関係がデザインされるのだろうか。富士塚だけが突然ある感じだったが。
- 日光御成道の拡幅に伴って十条富士塚は再整備され、従前とはかなり違うものになりそうである。まちづくりには様々な課題があり、その全てを満足することはできないため、結論に至るまでに地域で十分に議論されたのであれば、やむを得ないのだと思う。
- 自然地形や歴史文化など地域の魅力と防災対策、街路事業などが両立する方法を模索し、矛盾の調整に努力を払うことが大切なのだと思う。
- 現代都市の水害対策や震災対策は必要であり、そのために従来の自然地形や歴史文化が変わってしまうのも仕方がないが、計画に当たってはそれらをできるだけ尊重してもらいたい。音無川親水公園も音無さくら緑地も、河川改修によって不要になった場所を活用したものであり、決して従来の風光明媚な「音無川溪谷」の保存ではないが、地域固有の記憶の継承には役立っていると思う。日光御成道の拡幅で、沿道の商店街の街並みがどうになってしまうのかがとても心配だが、十条富士塚は「令和の富士塚」として後世まで残る再整備となってもらいたい。



防災対策事業で拡幅中の日光御成道(補助83号線)



往時の十条富士塚の上から日光御成道を見る

7 ■ 今回のコース設定や歩いたエリア全体に対する印象・感想など

- 王子駅から北区立中央図書館までは、都心でありながら緑が多く、地形の変化があり、歴史的建物が点在するなど、散歩するには非常によい環境。東十条駅周辺は東側の商店街なども含めて、商業的な空間が充実しており、なかなか面白そう。
- 王子は飛鳥山の桜見が有名で、来たことがなかったが、六義園、旧古河庭園から続くこの地域の文化性の高さに気づいた。
- 駅を出ると緑と水の空間が広がり、まち歩きの手がかりが高まりました。その後、軍都としての面影を感じつつ、ポイントを見るコース設定はとても楽しかったです。
- 緑豊かな自然空間に始まり、醸造試験所跡地公園から、都営王子アパートなど現代的な空間につながる街歩きは楽しかったです。
- 軍都という戦争=負の遺産とも考えられるものが、時を経て、それも歴史として新たなものとして残されていること、残すにあたっては議論があったことと思います。平和に活用されているのを見て、第二次世界大戦、ベトナム戦争と時を経たことを感じました。
- 今回は旧軍事施設が活用されているのを見て回ったが、これらは今の時代に見方によっては「嫌悪施設」となり得るモノ。施設の説明の中で「どんな施設」だったのかの説明はあったが、もう一歩踏み込み「この施設を残す意義」みたいな表示があっても良かったか。（難しいが）
- 最後の東十条駅を越えた時に、自分が今まで歩いてきた所との高低差に驚きました。このエリアはかなり高台にあり、富士塚や飛鳥山公園が存在していた理由に気づきました。やはり街歩きは、その場を歩いてみないと気付かない事があると感じられました。
- とても魅力的なコースでした。意外と緑地や公園、河川など都市のオープンスペースも多い所だと感じました。
- 以前王子に住んでいましたが、そのころには訪問しなかった地域資源を見られたので、良い経験になりました。
- 京浜東北線を毎日のように利用していましたが、王子と東十条の間を歩いたのは初めて。ここにこんなに面白い場所があったのか、と驚かされました。

- 今回はオンラインTEKU-TEKU第2回「ご近所再発見！～STAY・HOMEの贈りもの～」で紹介した、自宅から赤煉瓦図書館まで30分の日曜散歩コースです。子供の頃からなじんだ原風景ですが、豊かな自然地形や歴史文化については学生時代以降に知り、その奥深さを認識しました。皆さんに実際に体験いただけて良かったです。



商店街の路地を抜けていく東十条駅北口



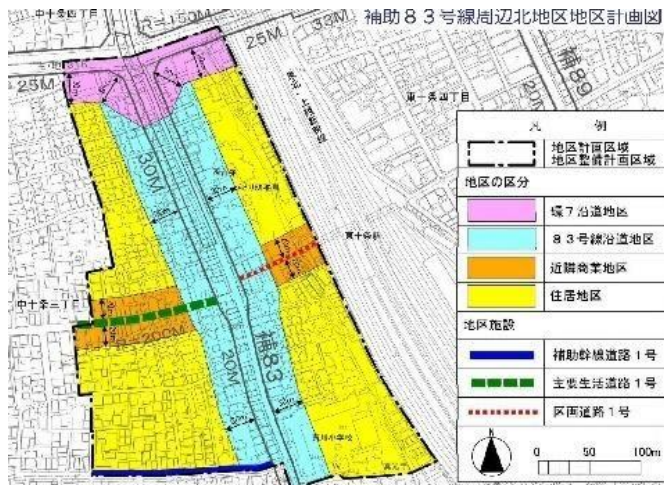
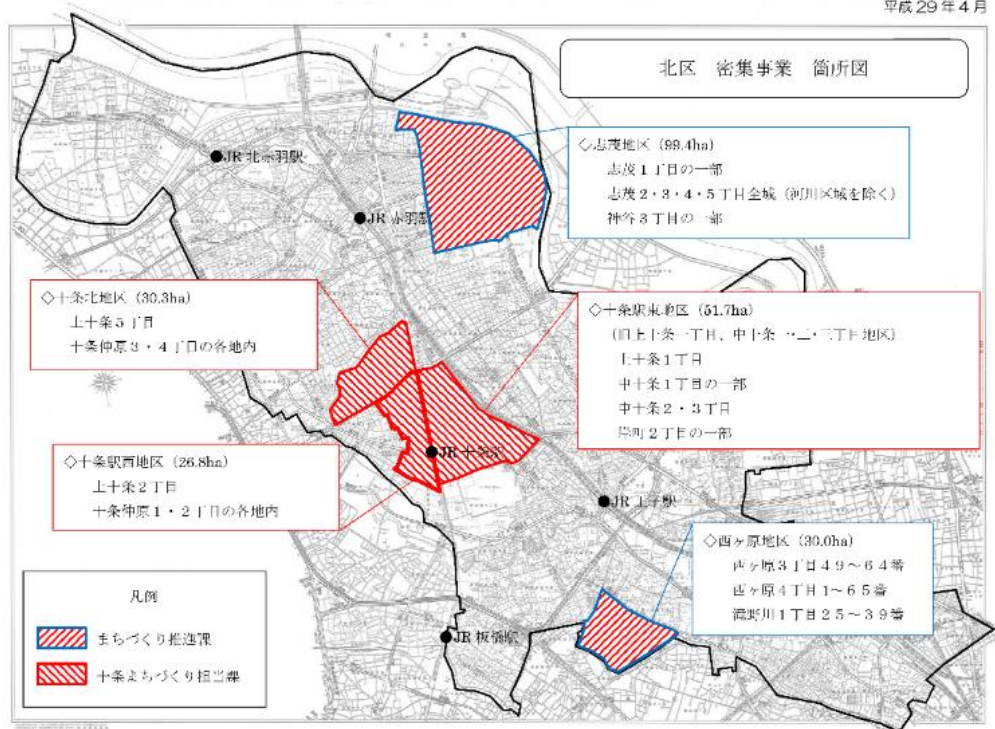
STAY・HOMEの贈りもの

8 ■分散型 TEKU-TEKU (試行) に参加してみたの感想や提案など

- 一人で歩くのも悪くはないが、街を歩きながら語り合うことができないので、TEKU-TEKUの面白さとしては半減している。分散型の場合には、従来のまち歩きとは違うものとして、新しい方法を考えた方が良いと思う。(K/T)
 - マップを見つつ、曲がることを意識して歩くと、周辺を見る量が減ることを感じました。また、様々な人の言葉を聞きつつ歩くことによる街を知る相乗効果は得られないと思いました。(U/T)
 - 自分のペースで歩いて、寄り道も好きにできるので、その点は良い。でもやはりその場で同行者という話をしながらの従来方式の方が楽しいです。(I/T)
 - 現時点でできることとしては、これ以上のものはないのではないかと思います。企画してくださった皆さんに感謝します。それでも、やはり現地を歩きながら、あ〜でもない、こ〜でもない、なるほど〜、と語り合うことがどれほど深く物事を理解するのに大切なことが痛感しました。(S/T)
 - 皆で一緒に注目点、課題点を共有化しながら歩く今までのスタイルは勿論良い点が多いですが、今回の分散型 TEKU-TEKU も十分有りと感じます。利点としては各自の思いで寄り道や訪問ポイント追加が出来ること。また都合の良い日時に実行出来ることもです。先日の渋谷についてのオンライン会議の際に「今回はルートではなく点で提案した」「あとは各自自由に歩こう」というのに大賛成。当分はこれで行くしかありません。(F/M)
 - 都合の合う日時と自分のペースでモデルコースを歩くことができるので、試行的には意義のあるアイデアだと思いました。(N/T)
 - 今回、このような企画は初めての参加でしたが、「分散型」も「アリ」だと思いました。(T/N)
 - 分散型は、今回のような十分な資料や情報があれば、マイペースで見えて歩けるので、意外と「楽しめる」と感じました。(H/M)
 - 日頃コーディネイターの方に依存して参加しているので、コースづくりなどへのご尽力をありがたく思います。今回は自立したというか、主体的に街を見よう、感じようという気分になったことにより、そのエリアへの思いが以前より増しました。まちづくりの専門家ではなく、生活者視点で参加しており、さらに視点に自由度＝観光気分（面白いものを発見しよう気分）が加わったような気がします。(H/H)
 - 今まで歩いて気付かなかったものをも見つけられるなど、案外楽しかった。(I/Y)
 - コロナ禍の影響で在宅勤務や自宅で過ごすことが多くなったが、住まいを中心とする地域を見直すことで、通勤が前提の住宅の価値観を変えるきっかけになる取組みである。(Y/Y)
 - なかなか時間がなくて歩くことはできませんでしたが、車で事務所へ戻る際に図書館だけ立ち寄ってきました。とても落ち着く図書館でした。軍事施設だったとはいえ、レンガ図書館として親しまれていることを実感し、残すことの大切さを痛感しました。(K/F)
- コーディネイターより ■初めての分散型TEKU-TEKUという試みにもかかわらず、12名もの方が歩いて評価提出して下さったことに、とても感謝感謝しています。コロナ禍で、皆さん業務上でも様々な工夫をして何とか対処していると思いますが、TEKU-TEKUでもいろいろ議論した結果、こういう形での試行となりました。皆さんの感想を拝見し、たくさんの意外な手ごたえと、それでもやはりの限界を認識しました。とりあえず緊急避难的に始めた試みですが、コロナ禍第三波が本格化している中で、当分は従来型のまち歩きを再開しにくい状況です。少しずつ改良しながら、この形を進めていきたいと思います。(O/R)

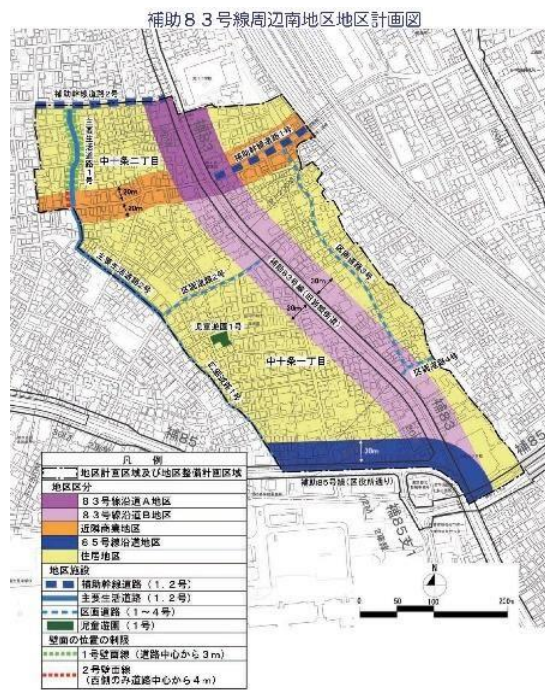
<参考資料> 補助83号線(十条)拡幅と地区計画

平成 29 年 4 月



補助83号線周辺北地区・地区計画

北区 HP <http://www.city.kita.tokyo.jp/juimachi/jutaku/jutaku/jutaku/misshu/jigyo.html>



補助83号線周辺南地区・地区計画